

第 12 講 ギリシアにおける青銅器文明の終焉（2）： 海の民とドーリス人の反乱

ドーリス人移住説の問題点：

ドーリス人の文化的痕跡を確認できず

プロト・ドーリス人と呼びうる人々は既にミケーネ世界にいた
方言分化はギリシア世界の中で、既に青銅器時代に始まっており、
変化したのはドーリス方言ではなくイオニア方言の方である

海の民犯人説

エジプト側の資料に登場

クロアチアからセルビアにかけての地に住んでいたイリュリア人の南下

↓

エジプト国境に殺到

ミケーネ諸王国（ギリシア南部）、ヒッタイト（小アジア）、ウガリト（北シリア）、キ
プロスを滅ぼす

前 1200 年頃 第 19 王朝末期のメルネプタハ王のとき、西方のリビアから

前 1150 年頃 第 20 王朝のラムセス 3 世のとき、シリアから南下し、ナイル河河口で
撃破

民族名の比較

シェルデン＝サルディニア人

トゥルシャ＝テュルセノイ（エトルリア人）

デニエン＝ダナオイ

アカワシュ（エクワシュ）＝アカイア人

カタストローフの後の新型武器

ナウエ 2 型の剣

新型の槍

特有の冑

小型の円盾

ヴァイオリンの弓形の留め金

手作りの黒色磨研土器

問題点

名称の類似性についての誤解

シェルデン＝サルディニア人≠イクヌ

トゥルシャ＝テュルセノイ≠ラセンナ

ドーリス人反乱説

武器や留め金、鉄製品について

これらは既に宮殿時代後半、LHIIIB2期、前1250～1200年にミケーネ世界に出現

鉄製武器も同じ時期にエーゲ海東部のコス島で埋納

手作りの磨研土器

ミケーネやティリンスで製造・使用

外部からの侵入の証拠はない

破壊は考古学的に確認される

古典期における方言の分布

ドーリス方言：ペロポネソス東部と南部

アルカディア方言：ペロポネソス中部

アカイア方言：ペロポネソス北部

エーリス方言：ペロポネソス西部

Hooker 説

青銅器時代の支配階級：アカイア人

線文字Bの言葉：アカイア人の言葉

アカイア人は豪華な石室墓を建設

ドーリス人は既にいた

被支配者層を構成

文字を持たないために言葉は書き残されず質素な土坑墓を使用

ドーリス人の革命

アカイア人を奴隷化→ヘイロタイ制の起源

追放→アルカディアにアルカディア方言

アカイアにアカイア方言

暗黒時代の墓の変化

石室墓の消滅と土坑墓の造営

問題点

線文字Bやアルカディア=キプロス方言

ドーリス方言に近い

イオニア方言からは遠い

LHIIIB と LHIIIC は文化的に連続

→種族の変化を想定させない

暗黒時代における石室墓・石郭墓

支配者層の存在